

| |
|---|
| 01 SUN |
| 02 MON ■AO試験・前期 エントリー受付開始(7月20日まで) ※実施学部/工学部/芸術学部/情報学部/生物生命学部 |
| 03 TUE |
| 04 WED |
| 05 THU |
| 06 FRI |
| 07 SAT |
| 08 SUN |
| 09 MON |
| 10 TUE |
| 11 WED |
| 12 THU |
| 13 FRI |
| 14 SAT |
| 15 SUN |
| 16 MON 海の日 |
| 17 TUE |
| 18 WED |
| 19 THU |
| 20 FRI |
| 21 SAT |
| 22 SUN |
| 23 MON |
| 24 TUE |
| 25 WED |
| 26 THU ■前期定期試験開始(8月4日まで) |
| 27 FRI |
| 28 SAT |
| 29 SUN |
| 30 MON |
| 31 TUE |

8 AUGUST

| |
|-----------------------------------|
| 01 WED ■AO試験・前期 願書受付開始(8月20日まで) |
| 02 THU |
| 03 FRI |
| 04 SAT ■第2回オープンキャンパス ■前期定期試験終了 |
| 05 SUN ■夏季休暇開始(9月19日まで) |
| 06 MON |
| 07 TUE |
| 08 WED |
| 09 THU |
| 10 FRI |
| 11 SAT |
| 12 SUN |
| 13 MON |
| 14 TUE |
| 15 WED |
| 16 THU |
| 17 FRI |
| 18 SAT |
| 19 SUN |
| 20 MON |
| 21 TUE |
| 22 WED |
| 23 THU |
| 24 FRI |
| 25 SAT |
| 26 SUN ■第3回オープンキャンパス |
| 27 MON ■AO試験・前期 試験日 |
| 28 TUE |
| 29 WED |
| 30 THU |
| 31 FRI |

9 SEPTEMBER

| |
|--|
| 01 SAT |
| 02 SUN |
| 03 MON |
| 04 TUE ■AO試験・前期日程 合格発表 |
| 05 WED |
| 06 THU |
| 07 FRI |
| 08 SAT |
| 09 SUN |
| 10 MON |
| 11 TUE |
| 12 WED |
| 13 THU ■指定校推薦(専門高校対象)前期 願書受付開始(9月28日まで) ※実施学部/工学部/情報学部/生物生命学部 ■特別選抜試験 願書受付開始(9月28日まで) ※実施学部/芸術学部 |
| 14 FRI |
| 15 SAT |
| 16 SUN |
| 17 MON 敬老の日 |
| 18 TUE |
| 19 WED ■夏季休暇終了 |
| 20 THU ■オリエンテーション |
| 21 FRI ■後期授業開始 |
| 22 SAT |
| 23 SUN 秋分の日 |
| 24 MON 振替休日 |
| 25 TUE |
| 26 WED |
| 27 THU |
| 28 FRI |
| 29 SAT ■第4回オープンキャンパス |
| 30 SUN |

SOJO UNIVERSITY

VOL.44 Summer 2007

PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

巻頭 特集

翔ぶぞ! 勝つぞ! コンテストプロジェクト

2008年度 入学者対象

OPEN CAMPUS

オープンキャンパスに 来て・見て・感じる 崇城大学生という自分の来春!!



体験講義や模擬実験、 教員や在学生への質問タイムなど、 崇城がどんな大学なのか、 しっかりわかるイベントがいっぱい。 入試攻略アドバイスもあるオープンキャンパスで、 自分の来春をイメージしよう!!

大学の見学は いつでもOK!!

じっくり・しっかり確かめられる 夏休み期間中には2回開催!!

第2回 ●8月 4日[土] 10:00~16:00
第3回 ●8月26日[日] 10:00~16:00

受験勉強が進むこの時期 秋のオープンキャンパスで ヤル気をアップ!!

第4回 ●9月29日[土] 13:00~16:00

お問合せは入試課まで
●Tel) 096-326-6810
●E-mail) nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp

崇城大学

SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/エコデザイン学科
建築学科/宇宙航空システム工学科
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 電子情報ネットワーク学科/ソフトウェアサイエンス学科/
コンピュータシステムテクノロジー学科
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
＜博士後期課程＞エネルギーエレクトロニクス専攻/
機械システム工学専攻/応用化学専攻/環境社会工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
＜修士課程＞電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
- 大学院芸術研究科
＜博士後期課程＞芸術学専攻
＜修士課程＞美術専攻/デザイン専攻

SOJO 検索

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111(代表) FAX.096-326-3000
広報誌「かくふう」第44号 発行/2007年6月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課(koho@ofc.sojo-u.ac.jp)



2008年度 入学試験情報

| | | |
|------|-----------|----------------------------|
| 前期 | 実施学部 | 工学部 ■ 芸術学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | エントリー受付期間 | 07月02日[月]～07月20日[金] |
| | 願書受付期間 | 08月01日[水]～08月20日[月] |
| | 試験日 | 08月27日[月] |
| 合格発表 | 09月04日[火] | |
| 後期 | 実施学部 | 工学部 ■ 芸術学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | エントリー受付期間 | 11月12日[月]～11月22日[木] |
| | 願書受付期間 | 11月29日[木]～12月07日[金] |
| | 試験日 | 12月13日[木] |
| 合格発表 | 12月19日[水] | |

| | | |
|--------|--------|---------------------|
| 特別選抜試験 | 実施学部 | ■ 芸術学部 |
| | 願書受付期間 | 09月13日[木]～09月28日[金] |
| | 試験日 | 10月06日[土] |
| | 合格発表 | 10月10日[水] |

| | | |
|---------|-----------|-----------------------|
| 前期/専門学校 | 実施学部 | ■ 工学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | 願書受付期間 | 09月13日[木]～09月28日[金] |
| | 試験日 | 10月04日[木] |
| 合格発表 | 10月10日[水] | |

| | | |
|---------|-----------|------------------------------|
| 後期/全指定校 | 実施学部 | ■ 工学部 ■ 芸術学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | 願書受付期間 | 10月22日[月]～11月02日[金] |
| | 試験日 | 11月09日[金] |
| 合格発表 | 11月16日[金] | |

| | | |
|-----------|--------|----------------------------|
| 普通高校/専門学校 | 実施学部 | ■ 工学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | 願書受付期間 | 10月22日[月]～11月02日[金] |
| | 試験日 | 11月09日[金] 10日[土] ※試験日自由選択型 |
| | 合格発表 | 11月16日[金] |

| | | |
|-------|--------|---|
| 一般/専願 | 実施学部 | 一般 ■ 芸術学部 ■ 薬学部 専願 ■ 工学部(航空整備士コース) ■ 薬学部 |
| | 願書受付期間 | 10月22日[月]～11月02日[金] |
| | 試験日 | 11月09日[金] 薬学部(専願) 11月10日[土] 工学部(航空整備士コース)・芸術学部・薬学部(一般) |
| | 合格発表 | 11月16日[金] ※薬学部は11月20日[火] |

| | | |
|------|-----------|-----------------------|
| 前期 | 実施学部 | ■ 工学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | 願書受付期間 | 11月29日[金]～12月07日[金] |
| | 試験日 | 12月12日[水] |
| 合格発表 | 12月19日[水] | |

| | | |
|------|-----------|------------------------------|
| 後期 | 実施学部 | ■ 工学部 ■ 芸術学部 ■ 情報学部 ■ 生物生命学部 |
| | 願書受付期間 | 02月12日[火]～2月25日[月] |
| | 試験日 | 03月03日[月] |
| 合格発表 | 03月07日[金] | |

| | | |
|------|--------------------------|-------------------------------|
| 前期 | 実施学部 | ■ 全学部(工学部・航空整備士コースは専願) |
| | 願書受付期間 | 01月07日[月]～01月25日[金] |
| | 試験日 | 01月31日[木] 02月01日[金] ※試験日自由選択型 |
| 合格発表 | 02月10日[日] ※薬学部は02月14日[木] | |

| | | |
|------|-----------|------------------------|
| 後期 | 実施学部 | ■ 全学部(工学部・航空整備士コースは専願) |
| | 願書受付期間 | 02月18日[月]～03月10日[月] |
| | 試験日 | 03月14日[金] |
| 合格発表 | 03月22日[土] | |

| | | |
|------|--------------------------|---------------------|
| 前期 | 実施学部 | ■ 全学部 |
| | 願書受付期間 | 01月07日[月]～02月04日[月] |
| | 試験日 | 本学独自試験は課さない |
| 合格発表 | 02月10日[日] ※薬学部は02月14日[木] | |

| | | |
|------|-----------|---------------------|
| 後期 | 実施学部 | ■ 全学部 |
| | 願書受付期間 | 02月18日[月]～03月11日[火] |
| | 試験日 | 本学独自試験は課さない |
| 合格発表 | 03月22日[土] | |



■表紙アートは2007年9月、芸術学部美術学科・洋画コースを卒業された鎌田亮(かまたまこと)さんの卒業制作「雑貨屋さん」。200号(2600×2600mm)という巨大なパネルに、独特の筆致で描かれた雑貨店は熊本市・上乃裏に実在するお店。但し狭い路地の奥にあるこのお店、作品のように正面から見るとはできないらしい。「崇城大学の4年間で僕が最も誇りたいのは恩師や友との出会い。そんな“出会いの大切さ”を表現したくて、好きな雑貨との出会いにいつもワクワクしていた。このお店をモチーフにしたんです」と語る鎌田さん。中学校の美術科講師として教壇に立ちつつ、「洋画家としての活動はずっと続ける」とのことでした。

CONTENTS

- 02 Special Feature
翔ぶぞ!勝つぞ!
コンテストプロジェクト
- 07 A laboratory review
情報学部
コンピュータシステムテクノロジー学科
向井研究室
- 08 工学部
機械工学科
井研究室
- 09 NEWS
新任教員紹介
第1回実学的地域コンソーシアム講演会
上岡教授が国際会議で招待特別講演
恒松教授が漱石の恩師の資料を発見
友好協力協定を結ぶ2市に協力
- 11 TOPICS
本妙寺「桜灯籠」
草枕の駅コンサート
大学院生が「化学工業修習士」に
崇城大学ギャラリー「しろ組×やま組」展
- 12 International exchange it
国際交流だより
Club's now
サイクルスポーツ部
漫画研究会
- 13 Active graduate
合同会社ちかけん 三城賢士さん他
エアリーニッポン株式会社 福島 昂さん
- 14 The history of a professor
薬学部 薬用植物園
村上光太郎教授
- 15 License Guidance
第一級陸上無線技士
第2種ME技術実力検定試験
- 16 SOJO as it is
英会話サロン
特許講座
- 17 Nature watching of campus
キャンパスの自然ウォッチング@43
- 18 Cooperation with region
地域との連携
SOJO college information
崇城大学専門学校からのお知らせ



翔ぶぞ!勝つぞ!

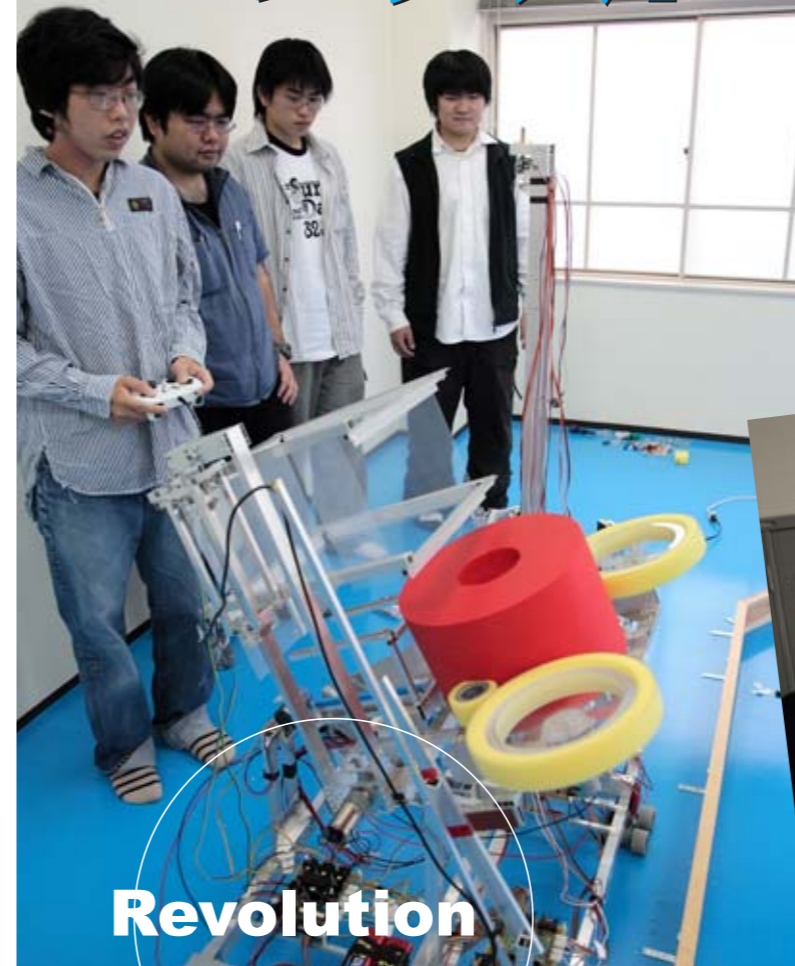
コンテスト・プロジェクト



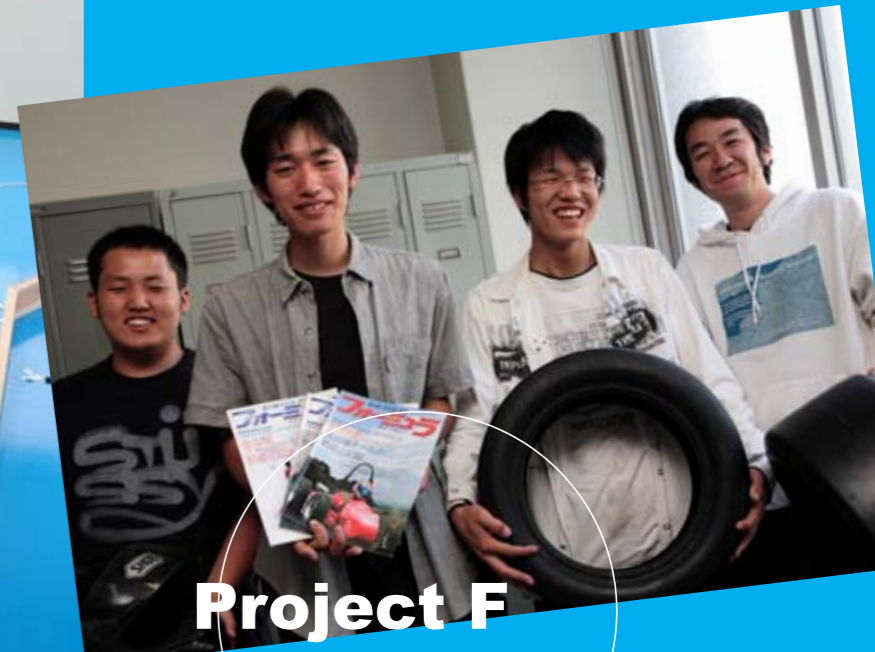
Aero Space



今年の鳥人間コンテストとNHK大学ロボコン、それぞれに挑む「エアロスペース」と「レボリューション」。来年の全日本学生フォーミュラ選手権大会への出場をめざし、着実に準備を進める「プロジェクトF」。崇城大学での学びを世に知らしめようと奮闘する、3つのプロジェクトチームをレポートします。



Revolution



Project F

翔ぶぞ! 勝つぞ! コンテスト・プロジェクト1 Team Aero Space

第31回鳥人間コンテスト選手権大会に挑む
工学部・宇宙航空システム工学科プロジェクト
チーム「エアロスペース」

崇城大学にとって20回目となる今回のチャレンジ。
目標とする2キロ“完翔”を達成すれば、
部門優勝も夢じゃない!!



●空港キャンパスでのテスト飛行。このようなことができるのも本学ならではの。



「崇城大学にとって20回目となる今回のチャレンジ。昨年556.76メートルを飛行して人カプロペラ機ディスタンス部門で4位入賞を果たしたことから、学内の期待がかなり高まっています。チーム全員、工学部・宇宙航空システム工学科生であるプライドをもって、機体の総仕上げに懸命です」と語ってくれたチームリーダーの米川喬士くん。入学以来の念願だったパイロットとなり、この第31回鳥人間コンテスト選手権大会に挑む平川邦弘くんは「今回チャレンジするのは人カプロペラ機タイムトライアル部門。これは1キロ折り返しの往復2キロのタイムを競うレース。いまだ1キロ以上を飛行したことがない本学にとっては少々無謀な挑戦かもしれない。しかし昨年2位のチームもゴールまで210メートルを残して着水している。タイムを気にせず、2キロ“完翔”を達成すれば、部門優勝も夢じゃないでしょう」。

それに関して米川リーダーも「人カプロペラ機タイムトライアル部門は本学にとって初のチャレンジ。本来なら、この部門への出場が決まった時点で往復レースに対応できるように、素早く旋回できる機体への設計変更が必要だったけれど時間がなかった。大きく旋回して時間を要してもよいから、ゴールで待つ全員に“平川笑顔”が見える距離まで戻ってきてほしい」とのこと。長距離飛行にとって、最も大切なのは総重量とパイロット・パワーの相関。最適のパワーウエイトレシオを求めて選ばれた平川くんは高校時代、サッカー部のフォワードとして活躍した経歴をもつアスリート。米川リーダーいわく「もう少し体重を減らしてほしいというのがチーム全員の本音」だそうです。空港キャンパスへの往復50キロを自転車を通うなど、平川パイロットもトレーニングに懸命。

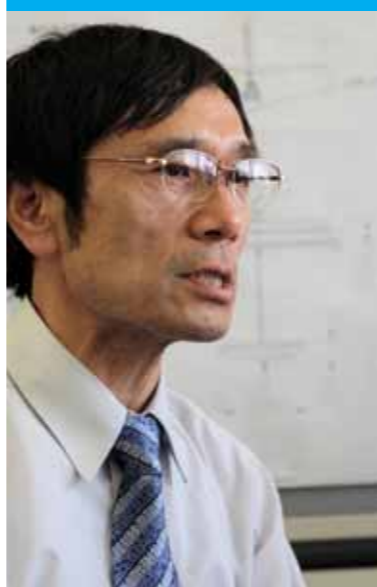
「米川リーダーはコンテスト開催地である滋賀県の出身。琵琶湖をながめ続けてきた彼がよむ風向き、そのアドバイスは大きな武器になるはず」。7月28日、琵琶湖の上空を飛行する我ががチーム「エアロスペース」の雄姿に期待しましょう。



チームリーダー
米川 喬士くん
Takashi YONEKAWA
工学部 宇宙航空システム工学科
4年次生 (滋賀県・東大津高校出身)



パイロット
平川 邦弘くん
Kunihiko HIRAKAWA
工学部 宇宙航空システム工学科
4年次生 (鹿児島県・鹿児島第一高校出身)



指導担当
吉村 勉准教授
Tsutomu YOSHIMURA
工学部 宇宙航空システム工学科



琵琶湖畔に生まれ育った “地の利”を活かしたい

●パイロットを志望していたが、人望の厚さと滋賀県出身の“地の利”を活かすためリーダーに。パイロットの体重を含む機体総重量を1グラム軽量化すると、飛行距離が1メートル伸びると分析する彼。但し「改良するつもりの工夫が重量を増すこともある」と悩みは尽きない様子。

空港キャンパスへの往復50キロ 自転車通学がトレーニングの場

●数多い志願者による激戦を勝ち抜き、入学以来の念願だったパイロットの座を得る。高校時代はサッカー部のフォワード。鍛え上げた大腿が発するパワーと持久力に期待がかかる。



●それぞれが担当する機体各部分のチェックに余念なし。これから大会当日まで、懸命の作業が続く。



Comment

この学科総力体制のプロジェクトは
有意義な教育課程でもあります

●この鳥人間コンテストへの挑戦は学科プロジェクト。駆動部、胴体、主翼、尾翼、機体、それぞれの設計・製作に指導担当の教員がつかまいます。私が担当しているのは主翼です。このような上位入賞を狙っての“学科総力体制”になったのは2005年度の準備からです。その準備である次年度機体の設計は大会終了の直後から始まり、主に担当する4年次生には、それを卒業論文にまとめさせます。だから今年、当チームが使う機体の設計は、この春に卒業していった学生たちによるもの。先輩から後輩へ、琵琶湖の上空飛翔という夢をバトンタッチしていくこのプロジェクト。航空機エンジニアをめざす学生にとって、有意義な教育課程でもあるのです。



●5月18日、本学空港キャンパスに集まったチーム「エアロスペース」のメンバーたち。愛機を前に意気軒昂。

第31回鳥人間コンテスト選手権大会 MEMO

日 程 ●2007年7月
27日[金] 受付・機体搬入・機体チェック・安全講習など
28日[土] 人カプロペラ機タイムトライアル部門フライト
滑空機部門フライト
29日[日] 人カプロペラ機ディスタンス部門フライト
会 場 ●滋賀県彦根市・琵琶湖東岸
主 催 ●読売テレビ放送株式会社

翔ぶぞ! 勝つぞ! コンテスト・プロジェクト2 Team Revolution

日本代表の座を賭けNHK大学ロボコンに挑む
ロボット研究会の
チーム「レボリューション」

「この岳風44号が発行されるのはいつですか?」。取材第一声が質問だったロボット研究会「レボリューション」チームリーダーの田中裕一朗くん。その理由は「NHK大学ロボコン当日は6月17日。それまでに作戦を明かすわけにはいかない」から。残念なのか、幸運なのか、この岳風44号が多くの読者の手に渡るのは6月中旬。手動ロボットの操縦を担当する予定の漆橋佑介くんは「それなら作戦は明かせるけれど……結果が出ている場合もあるわけですね」と苦笑い。

強豪との激突が回避できれば、 全国大会2年連続出場の経験を活かし 決勝トーナメントでの“勝利”も可能!!

その“結果”について田中リーダーは「全国大会出場が認められたのは21大学。実力を冷静に分析すると僕らのランクは9位ぐらい。3チーム総当たりのリーグ戦を勝ち抜いて決勝トーナメントに進むのは7大学。クジ運よく強豪との激突が回避できれば、決勝トーナメントでベスト4に入れる可能性もある」。

昨年12月の書類による第一次選考と今年4月のビデオによる第二次選考。厳しい審査を乗り越え、全国大会2年連続出場を果たした本学ロボット研究会のチーム「レボリューション」。今大会の競技課題は、優勝チームが日本代表として派遣される「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2007ハノイ大会」の開催国・ベトナムの世界自然遺産をモチーフとした「ハロン湾の伝説」。それは伝説の主役でもあるドラゴンに見立てたロボットが、パール(真珠)を積みあって得点を競うスタイル。チーム「レボリューション」の作戦は「バッティングセンターなどで見かけるピッチングマシンの構造を活用した手動ロボットにより、パールを得点ポイントであるアイランドへ飛ばす」というもの。

手動ロボット1機と自動ロボット3機、それぞれに独自の工夫とプログラミングを凝らした彼等が“有言実行”の勇者となっているかどうか。結果を知る読者の皆さんへ「期待にこたえている“はず”でしょう」と田中リーダー。漆橋くんをはじめ、メンバーたち現時点の“苦笑”が勝利の“快笑”になるであろう6月17日。プレッシャーも相当のようでした。



その経験が今年の強み
昨年はリーグ戦で敗退したが

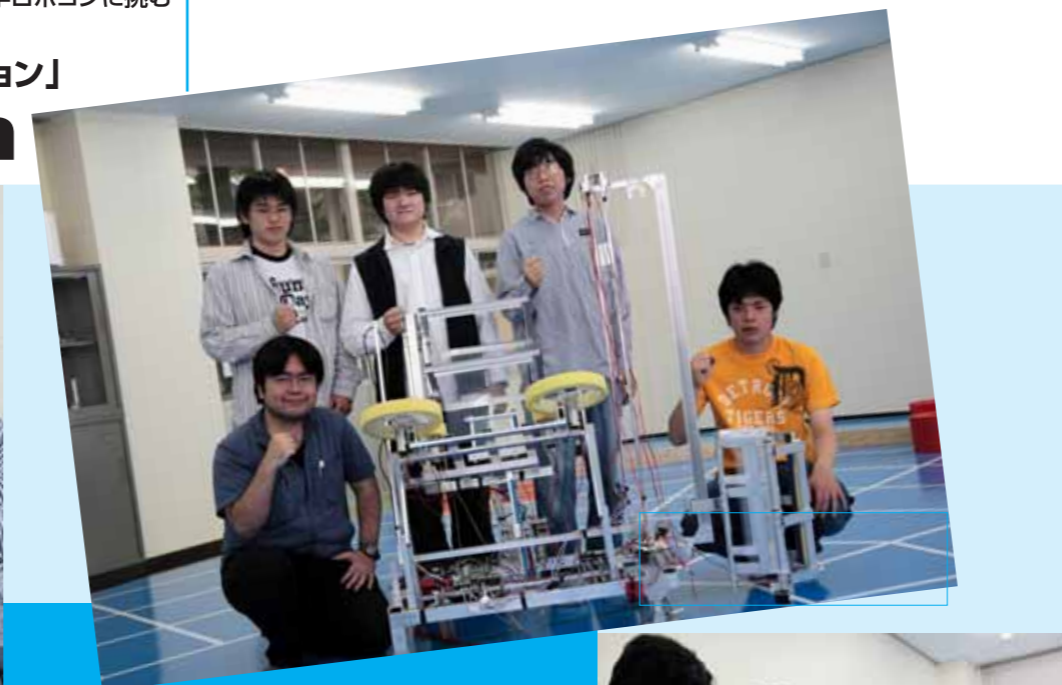
チームリーダー
田中 裕一朗くん
Yuichiro TANAKA
工学部 ナノサイエンス学科
4年次生(熊本県・真和高校出身)

●個性派が揃うチームをリーダーとしてまとめ「2年連続出場は約半数。昨年、決勝トーナメントに進んだ強豪大学でも落選した」という今年度のビデオ審査(第二次選考)通過を果たした功労者。「昨年はリーグ戦で敗退したけれど、今年はその経験が活かせる」と決意も固い。



●ロボットづくりに興味をもって崇城大に進学。入学時から様々なロボットを製作し、数多くのコンテストにも挑戦してきた3年次生。決勝トーナメント“悲願の一勝”に向け、秘めた闘志はチーム随一。

手動ロボット設計担当
漆橋 佑介くん
Yusuke URUSHIBASHI
工学部 機械工学科
3年次生(熊本県・八代高校出身)



●実際の競技フィールドとまったく同じに設定された、A棟1階の練習用室に集まったロボット研究会「レボリューション」のメンバーたち。大学の支援や期待も並々ならぬものながら、「結果はもとより、全国大会2年連続出場に至ったエンジニアリングの過程を高く評価すべき」との声も。

ロボットエンジニアの登竜門である
この大会で“悲願の一勝”を!!



●「ピッチングマシンの構造を活用した手動ロボットにより、パール(赤色の中空円柱)を得点ポイントであるアイランドへ飛ばす」作戦を披露するチームの面々。「勢いよく飛ばそうとすると、回転するシューティングディスクの圧力が発泡スチロール製のパールを壊してしまう。だから圧力を吸収しつつ“押し出す”感覚で飛ばせるよう、ディスクをソフトパターに改良した」と秘策も教えてくれた彼等。

NHK大学ロボコン2007 MEMO

開催日●2007年6月17日[日]
会場●国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室(東京都・渋谷区)
主催●NHK・NHKエンタープライズ
出場大学●北見工業大学(北海道)・日本大学(福島県)・ものづくり大学(埼玉県)・千葉大学(千葉県)・東京電機大学(千葉県)・東京大学(東京都)・東京工業大学(東京都)・東京農工大学(東京都)・神奈川工科大学(神奈川県)・桐蔭横浜大学(神奈川県)・長岡技術科学大学(新潟県)・金沢工業大学(石川県)・豊橋技術科学大学(愛知県)・名古屋工業大学(愛知県)・三重大学(三重県)・京都工芸繊維大学(京都府)・大阪大学(大阪府)・高知工科大学(高知県)・福岡工業大学(福岡県)・長崎総合科学大学(長崎県)・崇城大学(熊本県)

翔ぶぞ! 勝つぞ! コンテスト・プロジェクト3 Project F

ものづくり・デザインコンペティション
全日本学生フォーミュラ大会2008への出場をめざし
着々と準備を進める「プロジェクトF」

満点1,000点中“エンジニアリング”評価が375点。
ものづくりが問われる大会でチームがめざすのは、
「誰でも楽しめる」フォーミュラカーづくり。



女子学生のメンバー
急募中です!!

チームリーダー
横山 敏郎くん
Toshio YOKOYAMA
工学部 機械工学科
3年次生(熊本県・宇土高校出身)

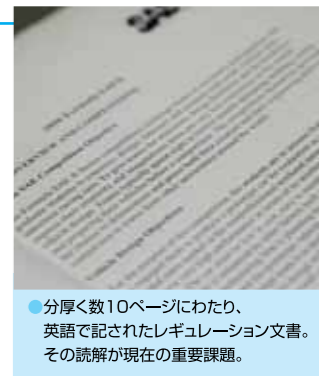
●現在、急募中のメンバーは「緻密なエンジニアリングやプロジェクトのマネジメントを担ってくれる女子学生!!」と答えた途端、「男女に関わらず、あらゆる崇城大学生のノウハウとヤル気が必要では」と他のメンバーに指摘されるリーダー。サークル「自動車部」を主体に結成された「プロジェクトF」のチームワークは上々です。



学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、将来の自動車産業を担う人材を育てるための公益活動として開催される「全日本学生フォーミュラ大会」。サブタイトルが「ものづくり・デザインコンペティション」であるように、満点1,000点中375点はコストやプレゼンテーション、設計や燃費の優秀性・信頼性など、エンジニアリングの精度が大きく問われる大会です。それもあって昨年10月、2008年大会への出場をめざして結成された「プロジェクトF」のチームリーダー横山敏郎くんは「僕たちのコンセプトは“誰でも楽しめる”フォーミュラカーづくり。大会当日の車検はかなり厳しいけれど、整備性や居住性、デザイン性に優れた車体をこの2年で完成させてパスしたい。めざしているのは、エンジニアとしての高評価」ときっぱり。この4月、エンジン等の供給を受けるために行ったプレゼンテーションでは、そのコンセプトが評価され「世界のホンダ」が支援を快諾。タイヤの供給についても世界のトップメーカー「ブリヂストン」から支援決定の連絡を受けるなど、プロジェクトの進捗は順調。しかし「車体や大会の規定が記されたレギュレーション文書はすべて英語!!思わぬ苦戦を強い

られています」と述べるチームの面々。横山チームリーダーも「2007年中に車両を完成。来年早々から試走、点検、調整を重ねていかなければ、9月の大会には間に合わない」とやや悲壮。

どのような“誰でも楽しめる”フォーミュラカーが完成するのか。いかなる“Formula SOJO”が本学の技術教育の確かさを立証するのか。「多くの期待に応えるには、学部・学科の枠をこえたノウハウの結集が不可欠。芸術学部生のデザインサポートは特に必要としています」。横山チームリーダーの呼びかけは真剣そのもの。フォーミュラカーに興味をもつ“あなた”の参加が待望される「プロジェクトF」。来年の9月、彼等と一緒に熱くならないか。



●分厚く数10ページにわたる、英語で記されたレギュレーション文書。その読解が現在の重要課題。

●4月20日、エンジン等の供給を受けるために行われたホンダ社へのプレゼンテーション。質疑応答の後、本学実習工場などを視察された4名の方々は「これほど充実した施設をもつ大学は見たことがない」と驚かれた様子。支援快諾の連絡は週明け3日後の月曜日に来た。



●2006年大会レギュレーションの表紙を飾ったのは、総合優勝を果たした上智大学。その雄姿から、大会のレベルの高さが想像できる。

ロボットの正確な制御に取り組む向井研究室



Mukai Laboratory

情報学部
コンピュータシステムテクノロジー学科
向井研究室
指導教員/向井栄一 教授 (工学博士)
研究テーマ/ロボットの位置決め制御

●「ロボットはアクチュエータ(駆動部)を動かして本体の一部のある位置へと移動させます。その位置決めを正確に制御することは“移動や作業を行うロボット”にとって極めて重要です。しかし、正確な制御を行うことはとても難しく、そのプログラミングにはかなりの時間を要します。但し、それらロボットの動作シミュレーションがコンピュータで可能になると、短時間で正確な制御ができるようになります。これらについての研究を、学生とともに進めているのが我が研究室です」。

●研究内容をこのように紹介された情報学部コンピュータシステムテクノロジー学科、向井研究室・指導教員の向井栄一教授。学生たちから「おちゃめな先生」と評されるなど、高度な研究を楽しく進めている様子も伺える。



向井教授

学生に
きく



情報学部
コンピュータシステムテクノロジー学科
4年次生/松下真也くん
熊本県 大牟田高校出身

Q
& **A**
この研究室を選んだ理由は?
ロボット制御のプログラミングにずっと興味をもっていたのが主な理由。同時に、ロボットがどのような仕組みで作動するのか、その過程も学べると思った。

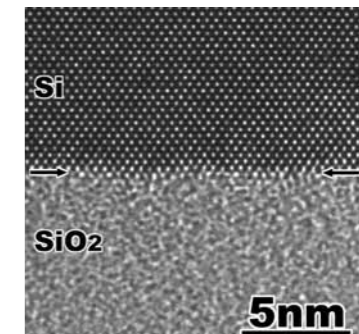
研究室の雰囲気は?

いつもは冷静な向井先生ですが、時々妙にテンションが上がる。日々にはげやかな学生たちも、そうなるにつれていけない。テンションが急上昇した先生をいかにして静めるか……当研究室における当面の課題です(笑)。

向井教授はどのような先生?

おちゃめな先生です(笑)。というのはさておき、学生の意思を常に尊重し、的確なアドバイスをされる先生です。

- 一人ひとり容姿も性格もちがうように、身のまわりにあふれているモノ(材料)も、いろいろな容姿(組織)や性格(特性)を持っています。
- 当研究室では、優れた先端材料の組織がどのようになっているのか電子顕微鏡で調べ、なぜ優れた特性を持つのかを世界の誰よりも早く解明することを目標とした研究に取り組んでいます。
- 先端材料の組織については、その原子配列まで観察し、特性と組織の関係を学生たちと一緒に、日々探究しています。
- これらの研究による究極の目標、学生たちと共に抱く夢は、組織を自分たちで制御することにより、優れた特性を持つ最先端材料を世界に先駆けて創り出すこと。メンバー全員が目標を掲げ、そのような大きな夢を日夜ひろげています。



透過型電子顕微鏡により観察した材料の内部組織



Ii Laboratory

井助教

工学部
機械工学科
井研究室
指導教員/井 誠一郎 助教 (工学博士)
研究テーマ/透過型電子顕微鏡法による
先端材料の微細構造解析

井研究室が学生たちと共に抱く夢は 優れた特性を持つ最先端材料を 世界に先駆けて創り出すこと

学生に
きく



工学部
機械工学科
4年次生/田尻靖明くん
熊本県 文徳高校出身

Q
& **A**
この研究室を選んだ理由は?
材料力学に興味があり、切削加工により産出される金属屑のリサイクル方法についても研究したかったからです。

研究室の雰囲気は?

コーヒーメーカーがあり、いつも淹れ立てのコーヒーを飲みながらミーティングをするなど、とても和やかな雰囲気です。また井先生は若く、僕たちとは年齢が近いこともあって親しみやすい。みんなで仲良く、一緒にランチを食べることも多いです。

井助教はどのような先生?

いついかなる時も学生のことを第一に考えてくださる方。僕らの見貴い存在でもあります。笑顔のたえない、優しい先生です。

新任教員

この春23人の教員が新たに着任。
崇城大学に新風を吹き込む、新任教員たちを紹介します。
キャンパスで出会ったら「こんにちは」から始めましょう。

●所属 ●職位 ●専門

工学部



- | | | | | |
|-----------------------------------|--|---|---------------------------------------|--|
| 井芹 浩文 ●総合教育 ●教授 ●政治学、選挙学 | 東町 高雄 ●機械工学科 ●教授 ●機械力学、材料力学、CAD | 斎藤 一夫 ●宇宙航空システム工学科 ●教授 ●航空従事者の養成 | 井手 恵 ●宇宙航空システム工学科 ●教授 ●航空機整備 | 松川 英昭 ●宇宙航空システム工学科 ●教授 ●航空機整備 |
|-----------------------------------|--|---|---------------------------------------|--|

- | | | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---|---------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 古閑登世美 ●総合教育 ●講師 ●職業指導 | 木下 陽子 ●総合教育 ●助教 ●英語教授法 | 田丸 俊一 ●ナノサイエンス学科 ●助教 ●超分子化学、ナノ材料、ナノバイオ | 村田 泰孝 ●建築学科 ●助教 ●建築環境工学、建築設備 | 猿渡 敬治 ●宇宙航空システム工学科 ●助教 ●航空機用ガスタービンエンジン設計 | 内田 浩二 ●機械工学科 ●助手 ●内燃機関工学 |
|--------------------------------|---------------------------------|---|---------------------------------------|---|-----------------------------------|

芸術学部



- | | |
|------------------------------|--|
| 石原 昌一 ●美術学科 ●教授 ●彫刻 | 宇佐美陽一 ●デザイン学科 ●助教 ●体感表現、感性・感覚ワークショップ、作曲 |
|------------------------------|--|

- | | |
|--|--|
| 永田 郁 ●美術学科 ●准教授 ●インド美術史、東洋美術史 | 岩上 孝二 ●デザイン学科 ●准教授 ●グラフィックデザイン、空間デザイン |
|--|--|

情報学部



- | |
|---|
| 原尾 政輝 ●ソフトウェアサイエンス学科 ●教授 ●知能情報処理 |
|---|

- | |
|---|
| 尾島 修一 ●ソフトウェアサイエンス学科 ●助教 ●信号処理、画像処理、視覚情報処理 |
|---|

薬学部



- | |
|------------------------------|
| 野原 稔弘 ●薬学科 ●教授 ●生薬学 |
|------------------------------|

- | | |
|---|-------------------------------|
| 周 建融 ●薬学科 ●助手 ●未病薬学、漢方医薬学、呼吸器薬理学 | 中原 和秀 ●薬学科 ●助手 ●衛生化学 |
|---|-------------------------------|

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 内田 友二 ●薬学科 ●助手 ●神経内科 | 庵原 大輔 ●薬学科 ●助手 ●精製学 |
|-------------------------------|------------------------------|

新任教員から
学生のみなさんへの
メッセージを
ホームページにて
公開中!!

地域リーダー育成策を探る 第1回実学的地域コンソーシアム講演会を開催

大学と産業界、行政が連携して地域リーダー育成のあり方を探る「実学的地域コンソーシアム講演会」（実行委員長 生物生命学部応用生命科学科上岡龍一教授）が3月3日、本学において開催された。この講演会は、本学が文部科学省に申請した「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に関連したものであり、中山学長が推進する「高等教育コンソーシアム熊本」構想の一步となるもの。第1回となる今回は「持続可能な地球・人類を目指して」をテーマに行われ、産・官・学および学生の立場から様々な意見や要望の提案があり、活発な議論が交わされた。

<特別講演>

- 講師／家藤治幸教授（広島大学酒類総合研究所部門長）
- 講師／松本陽子教授（本学生物生命学部応用生命科学科）

<パネルディスカッション>

- コーディネーター／井芹道一氏（熊本日日新聞）
- アドバイザー／上岡龍一教授（本学生物生命学部応用生命科学科）
- パネリスト／村田重之教授（本学工学部エコデザイン学科）・吉田烈教授（本学工学部ナノサイエンス学科）・山崎周一氏（熊本防錆工業）・佐々本一美氏（同仁化学研究所）・永田正典氏（熊本県工業技術センター）・古水雄志君（本学大学院応用生命科学専攻博士課程3年次生）



●特別講演をされた家藤治幸教授
（広島大学酒類総合研究所部門長）



●パネルディスカッション「持続可能な地球・人類を目指して」

総合教育の恒松教授が 漱石の恩師の資料を発見

文豪・夏目漱石の一高時代の英語と歴史の教師、ジェームズ・マードック（1856～1921）の未発表資料を総合教育の恒松郁生教授が友人の協力を得て発見した。マードックについてはこれまで様々な研究がされてきたが、まだいくつもの謎が残されたままだった。今回発見されたのは、これまで知られていなかった妻・竹子や家族の写真など。竹子の姪・南道子さんの自宅で見つかった。



本学と友好協力協定を結ぶ大分県臼杵市で 「タケのバイオテクノロジー的利用」研究が始まる

同市からの要望により、生物生命学部・応用微生物工学科でタケの利活用について研究することになった。タケは地上植物でもっとも生育サイクルの早い再生可能な資源として高度利用の可能性が高い。研究テーマは、バイオテクノロジーを利用したバイオエタノールの生成、生理活性物質の探索、健康飲料への利用、腐竹の飼料化や堆肥化、園芸用への利用。



本学と友好協力協定を結ぶ宇土市 行政マンが本学の学生に

同市職員5人を今春より1年間、特別聴講生として受け入れることが決定。聴講科目は食品保存学や石材彫刻など14科目。地元特産品の研究開発などに活用される。

voice

宇土市役所
前田保幸さん

●生物生命学部・応用微生物工学科で食品学などを学び、宇土市の「地産地消」事業の活性化に貢献したいと考えています。よろしく願います。

voice

宇土市役所
青木崇史さん

●総合教育科目の「憲法」や「現代社会と法」を受講。自治体職員が職務を遂行する根拠をしっかりと確認し、今後の職務に活かしたいと考えています。

生物生命学部・応用生命科学科

上岡教授が第1回ナノメディシン国際会議で 「人工細胞膜によるがん治療」について招待特別講演

4月20日から22日、分子科学研究所岡崎コンフェレンスセンターにおいて米国を含めた8カ国から約100名の研究者を集めて開催された「第1回ナノメディシン国際会議」。上岡龍一教授（生物生命学部・応用生命科学科）が本学で開発、臨床応用を進めている人工細胞膜によるがん治療についての招待特別講演を行った。この人工細胞膜は、がん細胞と正常細胞の膜の流動性の違いを認識してがん細胞だけに細胞死をもたらすという、従来の制がん剤にはない新しいメカニズムを有しているもの。アメリカ国立がん研究所もこの研究にいち早く着目。昨年10月には、そのHPのナノテクニクス（http://nano.cancer.gov/news_center/nanotech_news_2006-10-16c.asp）で、成果を世界で紹介。崇城大学の名前も掲載されており、今後の世界的展開が期待されている。



●講演中の上岡龍一教授（生物生命学部・応用生命科学科）

熊本の春の風物詩 本妙寺「桜灯籠」

今年も恒例の本妙寺「桜灯籠(はなとうろう)」が3月31日に行われた。熊本市の春の風物詩となった感のある桜灯籠も6回目。今回は花園にある本学応用微生物研究所の一部が地元住民に提供され、そこで行われたまつりのための会議や作業も、まちづくり活動の一環として地域に公開された。これまでこのまつりを支えてきた本学工学部のエコデザイン学科と建築学科に加え、今年度は熊本県立大学の学生も参加。本学学生のネットワークによって熊本市全体に活動の輪が広がってきた。但し残念ながらまつり当日は雨。そのため翌日に規模を小さくして灯をともした。事前にアナウンスしていなかったため、見に来たのは近隣住民の人々だけだったが、桜灯籠が始まった頃のような静かな雰囲気があった。

草枕の駅コンサート カフェスタイルで開催

4月15日の日曜日、市電上熊本駅に復元された旧上熊本駅舎を使って「草枕の駅コンサート」が行われた。平成14年から工学部建築学科の西郷研究室と地元の人々が協力して始められ、今回で12回目をむかえる。この活動は平成18年に移転・再生された旧上熊本駅舎の保存運動としても一役買った。今回の目玉はこれまでのジャズライブに加え、駅舎の底下で行われたオープンカフェとおおぞら市。「オープンカフェを使って日常的にぎわいをつくるヒントが見いだせた」と西郷講師。今後は継続的にオープンカフェや朝市を行おうという議論が盛り上がっている。ポスターのデザインやコンサート会場の設営を担当した4年生の中村稔久くん(長崎県・長崎工業高校出身)は「手づくりのアットホームな感じで地元の人々と接することができ、参加している方々との交流が新鮮だった」とのこと。

大学院生が 「化学工学修習士」に

大学院・応用化学専攻修士課程1年の船越修さん(東京都・都立園芸高校出身)が今年1月、財団法人化学工学会より「化学工学修習士」として認定された。この資格は平成18年度よりスタートした技術者資格制度の中のひとつ。今回の認定で船越さんはJABEE化学工学コースプログラム修了と同等の基礎知識を有することが証明された。船越さんも「今回認定をいただいたことで自信につながりました。これを励みにこれからもがんばっていきたい」とコメント。



芸術学部デザイン学科の2研究室が 崇城大学ギャラリーで「しろ組×やま組」展

芸術学部デザイン学科クロスメディアデザインコースの2つの研究室では、熊本をテーマに様々なメディアを利用した情報発信に挑戦している。その第一弾として、昨年度の卒業研究で取り組んだ「熊本城下町再現プロジェクト」と「阿蘇の響彩(いろ)プロジェクト」を卒業制作展で発表した。4月17日から5月6日まで崇城大学ギャラリーで開催された「Vid special 2007 しろ組×やま組」展は、熊本を再発見する情報提供の場やコミュニケーションの場になってほしいとの考えから再度公開されたもの。「熊本城下町再現プロジェクト」では200年前の熊本城を精細にCGで再現。バーチャルの世界で城内や本丸御殿内を歩いて廻ることができる。「阿蘇の響彩(いろ)プロジェクト」では野焼きの体験をシュミレーション。おんだ祭りやオオルリジミのドキュメンタリー映像、デジタルフォトによる南阿蘇白川流域の写真図鑑など。



International exchange it 国際交流だより



●留学生歓迎会/5月15日、本学の学生食堂で行われた留学生歓迎会。留学生別科生90名を含む総勢230名が参加。歌やジェンベなど、賑やかなムードで行われた。

アジア3カ国 16名の留学生が入学

本学の留学生は年々増加傾向。今年も中国、韓国、ベトナムの各国から、工学部に2名、芸術学部1名、情報学部10名、生物生命学部1名、大学院修士課程に2名、計16名が本学へ入学。今年度、留学生の総数は39名となり、キャンパスの国際化は進む一方。

data*留学生総数の推移

| 年度(平成) | 人数 |
|--------|----|
| 14 | 2 |
| 15 | 3 |
| 16 | 4 |
| 17 | 14 |
| 18 | 29 |
| 19 | 39 |

voice

情報学部
電子情報ネットワーク学科1年次生
劉 俊峰くん
リュウ・ジュンフウ
中国・河北省出身
崇城大学・留学生別科修了



●通信や無線LANなどを中心に学びたいと思っています。これから4年間がんばって勉強します。日本語は崇城大の留学生別科で勉強したので大丈夫。声をかけてください。

voice

生物生命学部
応用生命科学科1年次生
申 榮柱さん
シン・ヨンジュ
韓国出身
高知県 明德義塾高校出身



●生物生命学部・応用生命科学科では唯一の留学生です。抗ガン剤に関する勉強がしたいと思っています。韓国出身ですが、高校は高知の明德義塾高校。日本語が話せるので、気軽に話しかけてください。

Club's now

とても気持ちのよい スポーツです

●私たち「サイクルスポーツ部」は院生1名、4年次生6名、3年次生7名、2年次生8名、1年次生3名、計25名で活動しています。●主な活動はロードやマウンテンなど、自分の好みの自転車に乗って走りに行ったり、行った先でキャンプをしたり。練習は各々自由ですが、部員は自主的に集まってトレーニングをしています。●去年の夏合宿では大学から湯布院の間を1週間かけて走行しました。また今年の3月に行われた「天草サイクルマラソン100kmコース」では見事に参加した部員全員が完走しました。●自転車は自分の力で進むため、自ずと肉体的・精神的にも強くなれ、走り終えた時の達成感や走行中の自転車で見



サイクルスポーツ部
部長/工学部・建築学科3年次生
大塚委且くん(長崎県・長崎海星高校出身)

自由に楽しく作品づくり!!

●私たち「漫画研究会」では連日、作品づくりに励んでいます。年に数回行われる展示会では、一枚絵や模型といった各々の個性あふれる作品を展示しています。その他、積極的な学校行事や学外イベントへの参加を通して交流を深めています。●創作活動や絵を描くことが好きなメンバーが集まり、いつでも賑やかに活動しています。これからもぜひ、私たち漫画研究会の活動にご期待ください。



漫画研究会
部長/情報学部・電子情報ネットワーク学科3年次生
江崎修司くん(福岡県・柳川高校出身)

Photo Scrap*



4.5
入学式



4.6
オリエンテーション



4.10~24
新入生阿蘇研修



4.16
留学生別科入学式



5.10
学生総会



5.19~20
遠歩会

●リスボン国際建築トリエンナーレ2007
日本セクションスタッフとして参加

Active graduate

活躍する 卒業生



卒業生直撃
interview

工学部建築学科・内丸研究室3人の仲間で
竹あかりを専門としたディスプレイ企業
学内ベンチャー「合同会社ちかけん」を設立

●学内ベンチャー「合同会社ちかけん」による「竹あかり」ディスプレイ

- 三城 賢士さん(写真右)
2005年3月 工学部・建築学科卒業
2007年3月 大学院修士課程・建築システム開発工学専攻修了
現在も内丸研究室に研究生として在籍
- 池田 親生さん(写真左)
2005年3月 工学部・建築学科卒業
2006年3月 内丸研究室・研究生としての専攻を修了し退籍
- 井上 知裕さん(写真左)
2006年3月 工学部・建築学科卒業
現在も内丸研究室に研究生として在籍

現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●三城/内丸研究室に研究生として在籍しつつ、学内ベンチャー「合同会社ちかけん」を設立しました。主な事業は「竹あかり」を専門としたディスプレイ業。この「竹あかり」とは建築学科・内丸研究室で行っている“まったり型まちづくり”の中でつくってきたオブジェのこと。但し自分たちの会社はまちづくりとは別。オブジェに特化し、提供していきたいと考えています。

崇城大に学ぶ後輩たちへ

アドバイスやメッセージをお願いします
●三城/必要なのは理屈の量より流した汗の量。学内で見かけた時は声をかけてください。一緒にメシを食いましょう。学内ベンチャー「合同会社ちかけん」で儲けている(?)から、しっかりごちそうしますよ(笑)。

学生時代の思い出を教えてください

●三城/今も内丸研究室に研究生として在籍する学生ですが……学部4年間の中で思い出をあげるなら、つくったオブジェを売ながら3ヶ月かけ日本一周したことでしょうか。

将来の夢を教えてください

- 井上/会社としては営利目的でオブジェをつくっているわけですが、そのモノづくりの根本はまちづくりで培ったもの。まちづくりで関わらせてもらったまちには本当に感謝している。今後もまちづくりに参加協力し、よいものをつくって恩返ししていきたいと思っています。
- 池田/学内ベンチャーである「合同会社ちかけん」の事業、竹あかりのディスプレイに国境はありません。世界の各国・地域で「やりたい!!」ですね。
- 三城/さすがに二人は若い。夢がでかい。僕の夢、目標は……素敵なオムコさんになることです(笑)。

大学時代に学んだ事が 今どのように活かされていますか

●三城/内丸研究室で学んだまちづくりのノウハウ、ものづくりのノウハウは今の僕たちのすべてです。内丸先生を心から尊敬しています。

卒業生直撃 interview

ANAネットワークを担うANK整備部門に所属し 航空機の「安全」をライン現業部門・ 技術系社員として支える毎日

ANK (AIR NIPPON/エア・ニッポン株式会社)
●福島 昂さん 2006年3月 工学部・宇宙航空システム工学科卒業



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

●福島/勤務先はANAネットワークを担うANK (AIR NIPPON/エア・ニッポン株式会社)です。整備部門に所属し、航空機の「安全」をライン現業部門の総合職掌技術系社員として支えています。航空機が発発する際、窓の外を見ると地上で手を振っている人がいると思います。それも私がやっているライン整備の仕事のひとつです。

崇城大に学ぶ後輩たちへ

アドバイスやメッセージをお願いします
●福島/学生生活を大いに楽しみ、今しかできないことをより多く経験してください。大学生として過ごす時間は、自分のやりたいことを見つけるためにとても大切。このひと時を有意義に過ごし、自分がめざす“将来”を見つけてください。

学生時代の思い出を教えてください

●福島/実際に飛行機(SOCATA TB10)を操縦し、大空を飛べたことです。小さい頃から、飛行機を操縦することに憧れていたんで、初めて操縦桿を握った時はとても感動しました。

将来の夢を教えてください

●福島/夢はここには書ききれないほどありますが、今の目標は一等航空整備士の資格を取得すること。そして、自信を持って安全なSHIP(航空機)を送り出せる整備士に成長することです。

大学時代に学んだ事が 今どのように活かされていますか

●福島/工学部・宇宙航空システム工学科ならではの専門科目(特に航空機に関する科目)は、航空機をより詳しく知るために不可欠なカリキュラム。すべてがとても役立っています。中でも整備実習や航空機運動性能実習は、現場に立つ今あらためて「有意義な学びだった」と感じています。

The history of a professor

教授に歴史あり……シリーズ②

世界の民間薬収集がライフワーク。
TKU「びゅあピュア」のコメンテーターも務める
村上教授は高校卒業時、自衛隊を志願していた?

高校時代

植物研究部の活動に勤しみ
科学新聞社・研究論文募集に入賞
●高校時代はほとんど毎日、夜12時頃まで植物研究部というクラブ活動に勤んでいた。その間に科学新聞社の研究論文募集に応募、入賞を果たした。但しこの件は、喜んで親に伝えようとする先生、親には内密にしかかった私、約束を破ってクラブ活動を続けていたことを知った親、それぞれの間に大変な問題を引き起こした。

●私の家にとっていた新聞には頼んだため、入賞の記事は出たが、私の名前は抜いてもらうことができたが、中国新聞などの新聞に名前が載り(そこまでは気がつかなかった)、近所の人が「お宅の子供さんが載っている」とその新聞を持ってきてくれ、先生への口止めも水泡に帰した(実際は先生は内緒で親に伝えていたことは後で知った)。

●それから1週間、罰として、食事抜きが始まった。というように、多くの楽しい思い出が満載の高校生活でした(笑)。

進路選択

パイロットになるか
徳島大薬学部に進むか
とても悩んだ
●実験が好きで、中学では化学研究部、高校では植物研究部などで活躍していたが、大学受験の際はパイロットになるか、研究者になるかと悩んだ。それで自衛隊を受けて合格。パイロットへの道も拓いたが、徳島大学薬学部にも合格。とても悩んだ。

●それでも一応、小学校時代の恩師である松村先生へは徳島大合格の報告に行った。数年前、先生は持病を抱えて小学校長を辞しておられたのだが、その時は持病の苦しみからは解放された様子。訊くと「近所のおばさんに勧められたナタマメを服用、健康を取り戻した」とのこと。「好きな絵も描けるようになった」と喜んでおられるのを見て、現在のライフワークである世界の民間薬を収集、人々の役立つ人になりたいと考え、薬学を志すことにしたのです。



大学時代

大学2年次に漢方診断装置を
ランプの点灯で選ぶ装置を製作
●いろいろな思い出があるが、大学2年の時、漢方診断装置をランプの点灯で選ぶ装置を製作したことだろうか。これは生薬学研究室の東先生と名越先生に頼んで費用をだしていただき(当時の研究室の研究費の約半分)ダイオード等を購入、傷寒論記載の薬方から、自分の症状を入力するだけで、最適漢方を選び出すことができる装置。

●その過程では、「読書百遍、意自ずから通ず」という記載もあり、傷寒論に一回読むたびに正の字を作り、200回を超えた頃から少し解るようになり、300回を超えると、本の厚みが数倍にも膨らむことなどを体験した。

●また、この装置を大学祭に出品するため、時間がないので1か月間、寝ずに(瞬間的なウトウトは多々あったが)完成させた。この装置を当時の立石電気(現在のオムロン)などが見に来た。それをパンチカードセクターに応用、コンピュータ診断装置の元が作られた。

現在

土日もない多忙が続くが
薬用植物園は順調
●今は「薬用植物園」の仕事が忙しく、ほとんど実験ができていない。但し冬虫夏草(Cordyceps sinensis)の子実体形成能の研究、漢方生薬の組み合わせによる効果検討、梅を使った皮膚の再生能の研究、植物成分研究などを行う準備は進めています。

●また、今年から五木村の民間薬調査を植物研究部の皆さんと始め、中断していたライフワークも再開しました。中国少数民族の薬物調査にも出かけます。

●その他、玉名では小岱山薬草の会、島原では島原薬草の会、徳島県的美郷(特区形成)や池田(碧藍)でも会を設立。それらから、土日もない状態が続いています。



薬学部
薬用植物園
村上 光太郎教授
薬学博士

プロフィール●1945年1月29日、広島県(庄原市)に生まれる。星座は水瓶座、血液型はB型。専門分野は生薬学と漢方医学。1960年4月、広島県庄原市立庄原格致高校に入学(1963年3月に同卒業)。1964年4月、徳島大学薬学部に入學(1968年3月に同卒業)。1968年4月、徳島大学大学院薬学研究科に進む(1970年3月に同修了)。1970年4月から徳島大学薬学部助手、翌5月には助手に。2005年4月から崇城大学薬学部教授。TKU(テレビ熊本)午後4時54分からの情報番組「びゅあピュア」では、水曜日ゲストコメンテーターを務める。



学生へ

自分の活動記録を毎年
正月に1冊の本にまとめて
製本しよう
●薬学部生は試験に追われてヒマがなく、「他のことは何もできない」と思っているでしょう。しかし、本当は自分が怠けているだけで、一生懸命やれば時間はいくらでも作れる。それが学生時代です。専門以外にも目を向け、死にものぐるいで、がむしゃらに物事に対処できるのが学生の特権です。

●青春は一生続けることができますが、本当の意味で頑張れるのは学生時代だけ。就職し、年齢を重ねると、自分勝手に頑張ることができなくなります。そのためにも毎年、自分の活動記録誌を作ることをおすすめします。

●自分の活動記録を毎年、正月に1冊の本にまとめて製本するのは、そうすれば、その厚さで、前年の甘えがよく見え、今年の目標をより充実させることができる。これを本棚に並べてください。本棚に立てることができなくなるのは、あなたの人生の何時でしょうか。



情報学部

本学から「女性初」の合格者が誕生!

●今年1月に行われた国家試験で、情報学部電子情報ネットワーク学科4年次生3名が合格。本学から「女性初」の合格者も誕生しました。

<合格者・写真左から>

- 澤田 良貴くん(熊本県・九州学院高校出身)
- 西岡 和幸くん(熊本県・熊本学園大学付属高校出身)
- 新村 日出海さん(熊本県・水俣高校出身)

●資格概要/無線通信に用いる技術操作を行うための資格。特に放送局などの無線局の事業者において必置資格である。第一級総合無線通信士となれば、無線従事者資格の最高峰と称されています。

●本学での取り組み/第一級陸上無線技士資格の取得をめざす学生対象に講習会を週に3コマ開講しています。これにより過去3年間の合格者は平成16年に5名、平成17年に1名、平成18年に2名の計8名。

第2種ME技術実力検定試験

●資格概要/「第2種ME(臨床工学)技術実力検定試験」は「医用生体工学技術を応用したME機器の安全管理を中心とする医用生体工学に関する知識をもち、適切な指導者*のもとでそれを実際に医療で応用する資質を検定する」(日本生体医工学会)もの。国家資格ではありません。ME機器とは病院で使用される心電計・人工腎臓・人工心臓などのこと。この試験の合格者は、医療機器系企業に就職をめざす際、有利になるといわれています。

*第1種合格者は「適切な指導者」になることができます。

●本学の取り組み/生物生命学部・応用生命科学科では、この試験の合格を支援するために、熊本機能病院で臨床工学技士をされている櫻間博文先生を講師に迎え、3年次前期に「特別講義I」を開講しています。また医用生体工学実験ではME機器の実習があり、医療福祉工学などの講義でも関連した内容を教えています。この支援が始まって5年。これまで8名の学生(男子3名・女子5名)が合格しています。全国平均の合格率は30%弱という難しい試験です。●「臨床工学技士」資格とのちがい/臨床工学技士は国家資格であり、病院実習などを行う臨床工学技士養成専門学校に3年間通い、卒業しないと受験資格が得られません。この養成学校の学生の多くは国家試験受験の直前、この第2種ME技術実力検定試験を受験します。

高度先進医療を担う臨床工学技士をめざそう!

●生物生命学部・応用生命科学科を卒業して所定の単位を修得すると、養成学校の履修を1年間に短縮した「臨床工学技士専攻科」の受験資格が得られます。同学科を卒業した後に専攻科に進学、臨床工学技士として現在、病院に勤務している卒業生も少なくはありません。



voice



応用生命科学科をこの春に卒業し
京都保健衛生専門学校・
臨床工学技士専攻科に進んだ
曾根田佳子さん
(大分県・大分南高校出身)

●両親は九州を出て、京都保健衛生専門学校に進むことに難色を示しましたが、「手術中の人工心臓機器を操作する臨床工学技士がいかに重要なコメディカルであるか」等々を述べて説得しました。
●来年の今頃は資格を取得し、臨床工学技士として病院勤務を始めているはず。めざしているのは、大学の卒業研究で得た「糖尿病性腎症」への知識も活かし、その対処のひとつである透析療法を通じて生命維持に尽くすことです。

ネイティブスピーカーとの交流から“生きた英語”を楽しく学ぶ英会話サロン

●国際的人材の育成をめざす本学では、語学教育の一環として、全学生を対象に外国人講師による「英会話サロン」を開催。このサロンは「英会話力を伸ばしたい人」や「TOEIC のスコアアップをめざす人」をサポートするもの。
●総合教育・恒松郁生教授のもと今年度よりスタートした当サロン。ネイティブ・スピーカーであるデビッド・オストマン先生をかこんだ第1回の参加者は60名以上。教室に入りきれないほどの大盛況でした。

- 開催日時/月曜～金曜の毎日
18時から19時30分
- 場所/本学A号館2F
- 内容/中級英会話(月・火・木)
/入門英会話(水・金)
- 参加費・事前申込不要



総合教育
恒松郁生教授



voice

総合教育(新任)
木下陽子助教

●今年、崇城大学に着任しました。専門は「英語教授法」です。学生の皆さんには、大学生生活を有意義に過ごし、国際社会で自分を発揮できる人に育てて欲しいと思っています。
●この「英会話サロン」はそのための場。ネイティブの先生方との交流から生きた英語にふれ、会話の“手段”としての英語を学ぶ絶好の機会。数多くの学生さんに利用してもらいたいですね。



デビッド・オストマン先生



voice

薬学部・薬学科3年次生
長嶋美里さん(写真左)
(熊本県 真和高校出身)
林 珠希さん(写真右)
(福岡県 筑紫丘高校出身)

●英語が大好きな私たちにとって、毎日あるこのサロンはとても魅力的。みんなで英会話を楽しみながら、お互いに英語力を高めていきましょう。

高度な特許デザイン能力を有する人材育成を目的とした特許講座

●日本において知的所有権(特許)の重要性が叫ばれるなか平成17年度から開講。学生自身が独力で特許を出願できるようになるなど、高度な特許デザイン能力を有する人材への育成を目的とした講座です。
●昨年度は106名の学生が受講(全出席者19名・4回以上48名)。本学教員に加え、招いた山本秀策特許事務所の方々を中心に行われ、「魅力的な授業」だったと好評。なかでも特許事務所の方々のお話は現場に即した臨場感のあるすばらしい講義でした。

- 対象/工学部・情報学部・生物生命学部の3年次生
- 単位/特別活動の1単位(7回)を付与
- 講師/山本秀策氏(山本秀策特許事務所 所長、本学客員教授)
駒谷剛志氏(山本秀策特許事務所 所員)
大塩竹志氏(山本秀策特許事務所 所員)
笠井洋昭氏(工学部・機械工学科 教授)
新 隆志氏(生物生命学部・応用微生物工学科 教授)
池永和敏氏(工学部・ナノサイエンス学科 准教授)

●講師を務められた山本秀策特許事務所長(本学客員教授)





生物生命学部 学部長
生物研究会 顧問
若原 正宜 教授

恐ろしい名前だが
赤い実も黄色い花も可愛い
ヘビイチゴ(蛇苺)
Duchesnea chrysantha
※バラ科ヘビイチゴ属



●美しく成熟したヘビイチゴの果実



●黄色い花が可憐だ
●花の中心部にある球果は、熟すると真紅色の果実(1~1.5cm)になる。水分の少ない海綿質の果床は、毒成分は含まれていないが、糖も有機酸も殆んど無いので美味しいものではない。なお、食用のイチゴはオランダイチゴ属である。

● 属名はフランスのA.N.Duchesne(1747~1827)への献名で、種名はchrysos(黄金色の、黄金の)+antheon(花)から成る。

● 野原や道端のやや湿った所に生え、茎は長く地面を這い節から根を出して広がる多年草で3~5月頃、葉のわきから長い花柄を伸ばし黄色い可憐な花を咲かせる。

● 地方では、どくいちご(静岡他)、いぬいちご(兵庫)、かえるいちご(新潟)、きつねいっこ(鹿児島)、くちなわいちご(和歌山)などの方言で呼ばれている。



●オランダイチゴの切手(ポーランド)



●応用微生物工学科の玄関横にある防火用水池の縁に密生

蛇苺踏んで溝跳ぶ小鮒釣り
石坂 友二

草色のレースのような翅でヒラヒラ飛び
その姿が美しい品格を感じさせる
ヨツボシクサカゲロウ
(四星草蜻蛉)

Chrysopa septempunctata

※アミメカゲロウ目(脈翅目)クサカゲロウ科

●日本各地の平地から山地に生息し、4月から9月頃に成虫となり、すぐに交尾。産卵して1日から数日の間で死んでしまう。顔に4~5個の黒点があるのでこの名が付いた。英名をレースウイング(lecewing)というように、網目状のエメラルドグリーンの翅でゆっくりと空中を浮遊するように飛ぶ姿は品格さを感じる。



●「うどんげの花」と称される卵の塊

●クサカゲロウ類の卵は白いラグビーボール状で、1個ずつ長い糸状の柄の先端に付着しており、枝、葉、電燈の傘、天井などに塊めて産み付けられる。

●幼虫は肉食性で、アリマキや葉ダニ類をむさばり食うので益虫としての評価も高い。幼虫が孵化した後の卵が微小な花のように見えるところから「うどんげの花」として知られている。ちなみに「うどんげの花」は梵語。3000年に1度、花が咲くという想像上の植物「優曇華」の花にたとえられたもの。非常に稀な例として用いられる。

●また、ネコの好物であるマタタビにヨツボシクサカゲロウのオスが誘引されることが1915年に日本人により報告され、その後この物質がネオマタタビオール類であることが判明した。当時すでに、ネコの場合はマタタビラクトンやアクチニジンが誘引物質であることは判っていたが、縁もゆかりもない2種類の動物が、「マタタビ」という植物をとおして奇妙な関係があるのは興味深い。

●また、ネコの好物であるマタタビにヨツボシクサカゲロウのオスが誘引されることが1915年に日本人により報告され、その後この物質がネオマタタビオール類であることが判明した。当時すでに、ネコの場合はマタタビラクトンやアクチニジンが誘引物質であることは判っていたが、縁もゆかりもない2種類の動物が、「マタタビ」という植物をとおして奇妙な関係があるのは興味深い。



●レースのような翅が美しい

蜻蛉の風よりあはく飛び来たり
根岸 善雄

優曇華やしずかなる代は復と来まじ
中村 草田男

福岡大学附属大濠中学校・自然科学部で マイクロ波の共同実験を開始!

マイクロ波を用いたペットボトルの化学分解のリサイクル実験を中学生たちと共同実験を始めた。
きっかけは工学部ナノサイエンス学科・池永和敏准教授の読売新聞記事「ペットボトル分解レンジでチン」(平成18年9月9日)を見た福岡大学附属大濠中学校・自然科学部の前原裕亮君と吉村快君からの「実験を真似てみたが良くできなかったのでぜひアドバイスを頂きたい」との内容の手紙が池永准教授の元に届いたことから始まった交流。



●福岡大学附属大濠中学校・理科実験室での実験

昨年12月25日、池永准教授は彼らの中学校へ出張、理科実験室で実験を披露した(写真)。
今年度の目標は「共同実験した成果を来春の日本化学会の年会で発表」すること、および「化学と教育」誌へ投稿すること。
今回は崇城大学で研究をすることになっている。
今後の展開が楽しみである。



●池永准教授に届いた前原君からの年賀状(左が前原君)にはお礼の言葉「指導にきてくれてありがとうございました。頑張って実験を続けます」が添えられていた。



崇城大学「専門学校」からのお知らせ

2007 OPEN CAMPUS

6.23(土) 7.23(月) 7.28(土) 8.18(土) 8.24(金)

オープンキャンパスを開催

保護者同伴のオープンキャンパスを実施します。
もちろん生徒のみの参加もできます。

参加者全員に
粗品をプレゼント!

主な内容

● 学科内容・資格取得・就職等の説明・校内見学・体験学習

日程

- 6月23日[土] 10:30~12:00
- 7月23日[月] 10:30~12:00 / 13:30~15:00
- 7月28日[土] 10:30~12:00 (保護者同伴)
- 8月18日[土] 10:30~12:00 (保護者同伴)
- 8月24日[金] 10:30~12:00 / 13:30~15:00

6月23日と7月28日は、国家資格対策講座希望者へ国家試験の概要、本校の実績、対策講座の年間計画やカリキュラムを説明します。その後国家試験の問題を対象とした授業を行います。



参加申し込みは
メールや
インターネット
でもOK!

info@sc.sojo-u.ac.jp
www.sc.sojo-u.ac.jp/
TEL.096-323-1122
FAX.096-323-1449

崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑町10番25号